

## 永田邦和氏「銀行監督の名声重視のもとでの銀行監督と閉鎖政策」

横浜市立大学 酒井良清

本稿は、銀行監督が自らの名声を考慮するが故に、銀行閉鎖を施行しないという仮説をモデル分析によって明らかにしようとする試みである。銀行閉鎖は、閉鎖に伴う社会的費用との関係で分析されるのが通常であるが、本稿では銀行監督者の名声と関連づけている視点が新鮮である。この点を評価しつつも、以下の2つのコメントを提示したい。

- (1) 本稿は、銀行監督者が民間企業の人事担当者の評価を念頭において政策を執行するという事実認識から出発している。しかし、日本において銀行監督者は組織に対するロイヤリティが高く、したがって彼らは民間の人事担当者の評価を気にするよりも、むしろ組織内での評価を第一に考えるとするのが妥当な現実ではないだろうか。
- (2) 論文のモデルには、銀行監督者と評価者（民間企業の人事担当者）という2つの主体が存在するにもかかわらず、評価者の活動は銀行監督者に対する信念を修正するにとどまっている。評価者の利得を明示することによって、両者の利害関係が明らかになり、論文の結論をより内容豊かにできる可能性があると思える。